

生いっか

SHINGON

【特集】

がらんごじ
伽藍を護持する—文化財を守る寺院の使命

Vol.
90

真言宗智山派

仏さまに祈り 仏さまと出会う

目次

今日の法語	大津永聖	2
智山寺院探訪 萬徳山勝覺寺		3
特集 伽藍を護持する		
一文化財を守る寺院の使命		6
お大師さまとご信仰	田村宗英	10
いただきますの心	音羽和紀	11
図解・仏教ガイド 「マンガでわかる十三仏⑧」	え・悟東あすか	12
ゆーけいの写仏をするよろこび	牧 有恵	14
日本の四季を切り取る十七文字	星野高士	15
総本山の便りをお知らせします		16
私の夫はお坊さん	大塚哲子	18
ごくらくらくご	三遊亭竜楽	19
御詠歌で綴る十善戒の教え	佐々木眞光	20
読者アンケートから・おしらせ・編集後記		22
真言宗智山派出版物のご案内		23
曼荼羅の仏たち	小峰彌彦	24
刮目！ 仏教体験記 内藤理恵子		26
花に聞く 仏に聞く	佐々木隆元	28
仏教と妖怪	今井秀和	29
やきものをたのしむ	柳田栄萬	30
智積院障壁画のご案内		31

仏教について	仏教と文化
わたしたちの生活と仏教	お知らせ

表紙写真 岐阜県多治見市 虎溪山のカエデ

カエデが鮮やかに林を彩り日本画を思わせるような雰囲気です。よく見ると幹と葉は別々の種類。どうやら、幹は桜の木ようです。季節が変われば主役も変わるというのは人間の見方で、風景の中では仲良く共存しているように思えました。

表2写真 秋田県男鹿市 男鹿半島のススキ

男鹿半島の寒風山の麓にはススキ原が広がっています。うねる丘陵地は、太陽が水平線に落ちる頃、一面が夕焼け色に染まります。いつまでも見ていたい景色も、静かに静かに暮れていき、やがてあたりは暗闇に包まれます。

撮影・解説／佐藤尚



不生二佛

今日の法語「生佛不二」

大津永聖（千葉県匝瑺市蓮花寺住職）

この言葉は、衆生（生きとし生けるもの）と仏さまが二つに見えていても、本質的には同一で差別がない、ということの意味しています。

もちろん仏さまと同一だから何もしくなくてもいい、という意味ではありません。三密行という修行を実践して、ご本尊さまと一体になる境地に至ることを求められます。

しかし、何かと欠点の多い私たちが仏さまに連なることができるということは、大きな希望の光となつて、より一層の信心と修行に、私たちを向かわせてくれるのです。



天曆元年（947）、62代村上天皇の勅願寺として開山された古刹。ここ釈迦堂のご本尊は指
華微笑の釈迦如来像。天竺にて謹刻され、空海が唐より持ち帰り、ここに奉られたと伝わる。

青い空が広がり白い雲が浮かぶ一面の田園風景の中、緑青映える銅板葺きの屋根、そして朱の柱が特徴的なお堂が目飛び込んできます。ここが今回訪れた勝覺寺。千葉県山武市東部に位置し、九十九里浜までわずか一キロ、でもここからは全く海を感じられませんが、さすが、実は海との関係はとても深いのです。



智山寺院探訪

関東八十八カ所霊場第四十六番札所
上総國薬師如来霊場第二十六番札所

千葉県山武市

萬徳山勝覺寺

「四天王由来の地名は何か所も」

寺院名や本尊名が地元の地名になるのは全国津々浦々。本日訪れた勝覺寺の四天王は、地元の地名だけではなく近隣広範囲にわたる地名の由来になっています。

寺伝によると、この四天王は仏師運慶が護国安穩を祈願して彫り上げ、龍宮に捧げるため海中に流したものの。しかし龍宮より人間界に戻されたという。辿り着いたのが九十九里浜、現在の大網白里市四天木の海岸。四天王が寄ったということから昔は「四天寄」と表記されていました。

「松ヶ谷村の勝覺寺にお祀りされているお釈迦さまのお側に安置してほしい」と四天王に頼まれた漁師たちは、各々二メートルを超える四天王を担いで運んだそうです。途中休憩し、担ぐ肩を変えた場所が、「片貝」。更に進むが勝覺寺が見あたらない、戻るか戻らないか思案した場所が「本須賀」となったそうです。

四天木から勝覺寺までの十五キロほどの行程にある地名には、この四天王に由来する地

名が他にもたくさんあります。他の地名の由来は、釈迦堂を拝観するとご住職の見事な語り口での説明を聴くことができます（要予約）。是非ご参拝され、臨場感あふれるご住職の法話でお楽しみください。

釈迦堂の尊像たち

釈迦堂は、今から三百年以上前、元禄八年（二六九五）に覺眼住職の代に建立されました。覺眼住職は、落語「徂徠豆腐」で有名な、荻生徂徠の勉学の師でありました。後に、徂徠はお世話になった恩返しとして『勝覺寺縁起』を著しています。

お堂に入ると、中央にご本尊釈迦如来と阿難・迦葉の両尊者像、そして四方を取り囲んで立ち並ぶ四天王に圧倒されます。同行したカメラマンが、「素晴らしすぎて、私のような人間には撮ることができない、そんな風に感じて、打ちひしがれながら撮影していました」とプロをも唸らせる、本当に大迫力の尊像たちです。この筋骨隆々の体軀、真迫の憤怒相の四天王にまず目を奪われることでしょう。

そんな中、堂内右奥には傷ついた木像がひっそりと祀られています。なぜ仏として有名な寶頭盧尊者です。この寶頭盧さまは安政五年（一八五八）、江戸でコレラが流行した際、出開帳が行われ、多くの患者を救われた



拈華微笑の釈迦如来像と四天王。拈華微笑とは、お釈迦さまが説法をはじめず、手にもった華を無言で軽くひねられた。その意味を、弟子の中で迦葉尊者のみが理解し、にこり、と笑ったという。言葉では伝えられない教えを示している。釈迦坐像の両側に迦葉、阿難両尊者の立像が祀られる。それを取り囲む東南西北の四方を持国天、増長天、広目天、多聞天の四天王が守っている。(千葉県指定文化財)

人々が集う遍照殿

釈迦堂ではお護摩が焚かれ祈願が行われますが、遍照殿ではご法事やご葬儀、お施餓鬼

残念ながら傷みが激しく今はなでてお参りすることができません。でも安心してくださいます。なでられますよ。アイデアマンのご住職発案によるお身代りのご尊像「ピンクのなで仏」が遍照殿に祀られています。なでてお参りしたい方は、遍照殿へどうぞ。

という記録が残る由緒ある尊像です。また、昭和三十年頃までは、不漁が続くと、漁師は釈迦堂に忍び込み、こっそり寶頭盧さまを拝借して船に乗せ漁に出たそうです。すると必ず大漁になったという靈驗あらたかなご尊像なのです。



釈迦堂の右手奥に安置され、多くの方々に撫でられ、苦しみを救われ、我が身を削られた、寶頭盧尊者像。漁師たちが拝借していた話は実行犯から直接聞いたのだ、と笑顔交じりでご住職が話してくださった。

です。満月の夜には阿字観会、友引の日には友引カフェが開かれたり、さまざまな行事が行

などの仏事が行われています。その他、イベントや講演会、落語会、コンサートなど地域の交流の場としても活用されています。取材当日もヨガ教室が開かれており、私も少し体験させていただきました。参加者によると、ご本尊さまに見守られながら行うヨガはまた一味違うものだそう



平成 23 年に檀信徒のご協力を得て立派に改修された遍照殿。「きっと昔のお寺は人々が集う場所であつたのだろう」と、遍照殿では人々が集える企画が繰り返されている。

波乗り不動

空海が唐からの帰途、荒波に襲われた際に不動明王に祈ったところ、波が去ったことから信仰されている波切不動。こちら全国

われ、人々が集う開かれたお寺となっています。これらの行事すべて、ご住職と寺庭婦人（奥さま）のお二人で準備から片付けまで行っているとお聞きし、大変驚かされました。ご住職は勿論のこと、寺庭婦人のそのお人柄の良さ、そして拈華微笑のお釈迦さまの説法を理解した微笑みに、多くの人々が癒しを求め集まってくるようです。



遍照殿のご本尊金剛界大日如来。お檀家さんのご先祖さまをお守りすると同時に、各種イベントごとに参加者とご一緒に楽しんでください、生きる力を与えてまいります。

津々浦々にお祀りされていますね。同じ山武市内の不動院（本誌二十三号平成十三年一月号に掲載）も浪（波）切不動として親しまれています（勝覺寺より車で十分ほどですので、ぜひ不動院にもご参拝ください）。

そしてここ勝覺寺には波切不動ではなく「波乗り不動」が祀られています。お不動さまがサーフィンを楽しんでいます。九十九里浜から近いこともあり、多くのサーファーが海に向かう前に海上安全を祈願されているそうです。

また最近では「世間の荒波を乗り越えたい」と願うサラリーマンにも人気で、荒波にのみ込まれそうなお方、私のようにすでにのみ込まれてしまっている方は訪れる価値ありますよ。私も一心にお参りさせていただきました。（智山教化センター所員／上村正健 撮影／竹本りか）



波乗り不動 ご住職発案によるもので、ここでしか参拝することができません。波乗り不動を描いたステッカーお守りは、全国各地から問い合わせがあるそうです。



ACCESS アクセス

勝覺寺

千葉東金道路 山武成東インターから10km

最寄駅 JR総武本線成東駅より約7km

バスをご利用の場合 JR総武本線成東駅から千葉フラワーバス海岸線「松ヶ谷」下車徒歩3分

〒289-1303 千葉県山武市松ヶ谷12058-1

TEL 0475-84-0248 ホームページ <http://shokakuji.com>



第57世住職の小杉秀文師と、微笑み豊かな寺庭婦人の智子さん。「お寺はエンターテインメント性があった方がよいね」住職のその語り口はユーモアに溢れ、その思いがお寺に反映されている。

伽藍を 護持する

—文化財を守る寺院の使命

智山教化センター専門員

京都府木津川市海住山寺住職 佐脇 貞憲

海住山寺の伽藍 写真の左上付近は奈良時代聖武天皇の恭仁京がおかれ、のち百人一首の「みかのはら わきてながるる……」と歌われた地でもあります。

真言宗智山派の寺院の中には、文化財を所蔵されている寺院が数多くあります。

そもそも文化財とは、わが国の歴史・文化を正しく理解し、文化の向上発展に資する国民的財産とされ、政府・地方公共団体はもとより、文化財の所有者や関係者は、そのことを自覚し、保存・活用をはかるなど、文化財保護に努めなければならないとされています。寺院にとって文化財は、あくまで皆さまの信仰により守り伝えられた寺宝であり、文化財の指定如何にかかわらず、後世に受け継いでゆく使命は変わりありません。

一口に文化財といってもさまざまなものがあります。寺院に関わる例をあげますと、堂塔は、文化財の分類では「建造物」といわれます。智山派寺院の中には、本堂が国宝や重要文化財に指定されている寺院がたくさんあります。次に仏さまです。これは「彫刻」と呼ばれます。ご本尊さまが「国宝」や「重要文化財」という寺院、こんな近くでござりさせていたいただけるのかと思うこともあれば、ご開帳は何年に一度という「秘仏」の場合もあります。

つぎに仏画です。これは「絵画」と呼ばれていますが、お軸であったり巻物・襖絵・屏風などさまざまな形状のものがあります。そして「書籍」と呼ばれる経典や古文書。また仏具・額・刀・花瓶等の「工芸品」と呼ばれるもの、あるいは境内一帯が「史跡」という保存地域に

指定されている場合や、伝統行事が「無形文化財」ということもあります。

そのなかで、かつては国が寺院の宝物の調査を行い、重要文化財に指定し、そのなかでも特に文化財的価値が高いとされるものは「国宝」に指定されています。最近では都道府県や市区町村も文化財を指定し、積極的に保護している自治体も見受けられます。

海住山寺の文化財

さて、ここからは私が住職をしています海住山寺という京都府南部、木津川市の山中にあるお寺の話をします。ほかの文化財を護持されている寺院とは何かと異にすることはお含みおきください。

海住山寺には国宝五重塔・重要文化財文殊堂・ご本尊十一面観音立像・奥の院十一面観音立像・四天王像・法華経曼荼羅図・海住山寺文書の国指定文化財があります。建物はもちろん境内に建っています。ご本尊さまは本堂内のお厨子の中におられますが、ほかのものは京都・奈良の国立博物館に分けて寄託しています。もちろん元々は寺内の建物や宝物蔵におさめられていました。当山では、本堂のご本尊さまと奥の院のご本尊さまが、ともに重要文化財に指定され、本堂のご本尊さまは等身大の大きさですが、奥の院のご本尊

さまは四十五cmと非常に小さく、重要文化財の中でも優品との評価を受け、お堂での安置は火災・盗難等の危険が高いとのことから文化庁より博物館への出陳を勧告され、現在は奈良国立博物館にお預けし、毎年秋にお寺にお帰りのためにご開帳しております。

文化財修復の苦勞

寺院の伽藍は、文化財の指定の有無にかかわらず、数十年に一度は修復の時期がおとずれます。瓦屋根の建物ですと、五十年に一度は屋根の葺き替えが必要です（檜皮や柿で葺かれた建物は、もっと短い期間で葺き替えます）。また堂塔の場合、何百年に一度は半解体や総解体の大規模修復が必要となります。現在奈良の薬師寺の東塔（国宝）は十数年の歳月をかけての総解体修理が行われています。

また建物以外にも、仏像・お軸等も傷みが目立つようになれば修復が必要となります。やはり、後世に引き継いでいくために、一定の品質を保っていく必要があるのです。当山にも、堂内・宝蔵内・寄託博物館に多数あり、順次修復を進めています。終着点はなく、終わりのない旅が続いているようなものです。お寺として修理経費の支出は頭痛の種です。

因みに修理の費用についてですが、国宝や

重要文化財に指定されているものを修復する場合、半額は国から補助されます（事業費や修復期間等により多少の増額はあります）が、残りは所有者の負担となります。未指定のものは更に負担が多くなり、何といってもこの点が寺院にとって大問題です。

文化財調査・記録の必要性

古い寺院やその関連の場所には、いまだ調査が終わっていない文化財が多数あります。また、調査を終えたもののなかにも、視点を

変えたり、赤外線カメラ・CTスキャンといった最新の機器を使つて再調査すると、見えなかった図様が見



『阿彌陀浄土曼荼羅図』の修復前と修復後の写真。修復中「軸木」から鎌倉時代修復の年号や由緒書きが発見された。

えたり、体内の納入品が判明したり、再発見が間々あります。今もなお所蔵文化財調査をすすめており、昨今その成果を『海住山寺の美術』という冊子にまとめ、写真・解説付の現代版財産目録として整理いたしました。また数年前より宗立の正大学調査団による聖教・経典類の調査を行い、所蔵目録の作成を進めています。

文化財護持のために必要なこと

日々の護持にも苦労はつきものです。最近世間を騒がせた文化財に液体をかける、傷をつけるという犯罪も発生しておりますが、文化財の護持ではまず、火災に対する備えが一番です。日本の文化財は木や紙でできたものが多く、火災には最も神経をすり減らします。寺院は、灯明やご祈願のお護摩など、火を使うことも多いですし、夜間にお参りをされてローソクを奉納し、点灯したままお帰りになる方もいらっしゃいます。お参りの方のお気持ちも考えながら文化財の防火に努めねばなりません。

当山は山寺ですので、火災報知機以外に放水銃設置・消防道路整備という防災施設整備が重要です。その一端を申し上げますと、国宝の五重塔を火災から守る消火設備として、境内に百十程度の貯水槽を設け、各所に配管



1月26日の『文化財防火デー』にともなう消防訓練の様子。万が一に備え、総代さんや檀家さんにも参加してもらい消防署と放水訓練を実施。同時に査察も行われます。

し、万が一の時には五重塔先端まで放水できる設備です。大型トラック並みのエンジンポンプを設け、一時間程度自前で放水できるようなしてあります。これは初期消火の話で、当然消防隊の到着を待つことになります。山麓から1kmほど離れた山寺のため、かつては自動車が通行できる道路がありませんでした。二回に分けて消防道路設置工事を行い、何とか消防車が進入できるようにしましたが、最近の消防車の大形化に伴い、現在も防災道路の延長と改良工事を行っています。これらは設置だけでなく、日々の維持管理が必要となります。

平成29年度

第53回京都非公開文化財特別公開

海住山寺 国宝五重塔内陣・奥の院十一面観音像・

法華経曼荼羅図・阿弥陀浄土曼荼羅等

現光寺 本尊十一面観音坐像・四天王像

2017年10月28日(土)～2017年11月12日(日)

展覧会情報サイト <http://www.kobunka.com/tokubetsu/>

(写真右)
海住山寺
国宝五重塔内陣

(写真左)
現光寺
十一面観音坐像



海住山寺の重要文化財『四天王像』や、六波羅蜜寺の重要文化財『地藏菩薩』が東京国立博物館の催しにて特別公開されます。ご興味を持たれた方は足をお運びください。



興福寺中金堂再建記念特別展「運慶」

東京国立博物館 平成館 特別展示室

2017年9月26日(火)～2017年11月26日(日)

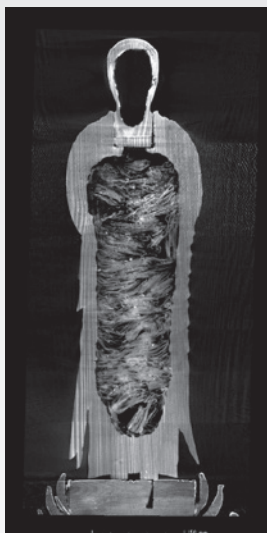
※詳しくは東京国立博物館のホームページをご覧ください

展覧会情報サイト <http://unkei2017.jp/>

海住山寺ホームページ <http://www.kaijyusenji.jp/>



赤外線で撮影すると、肉眼では見えない図様もはっきり写し出されます。
写真提供／奈良国立博物館



仏さまのCTスキヤン画像。内部の納入品がよくわかります。
写真提供／京都国立博物館

文化財所蔵寺院の連携

近隣の京都の南部地域には、多くの文化財を有する寺院が点在しています。奈良に隣接する南山城地域の寺院が集まり『京都南山

城古寺の会』を結成し、地域の文化財をより多くの方に認識していただく活動を進めています。これらの寺院の中には、「国宝」七件・「重要文化財」は多数あり、真言宗智山派の観音寺・蟹満寺・神童寺・現光寺・笠置寺も多くの文化財を所蔵され、その保護と公開に積極的に取り組んでいます。

文化財公開と護持のバランス

多くの方々に、文化財のすばらしさだけでなく、修復の意義などを後世に伝えることも目的として、可能な範囲で文化財の公開を行っています。

昔からさまざまな寺院で、ご本尊さまの姿を何年かに一度直接拝むことのできる「ご開帳」が行われてきました。現代では博物館等で特別展が開催されたりしますが、当山では、年一回秋に国宝五重塔開扉と文化財の特別公開を行い、順次所蔵の文化財を公開して、拝観料などの浄財により次の文化財修復の準備を進めています。

因みに今年は、東京上野の東京国立博物館で「運慶」の特別展が開催され、海住山寺国宝五重塔奉安の四天王像も特別公開されます（八頁参照）。

この四天王像も、かつては土蔵の中でバラバラの状態で保存されていたものを修復し、

平成になってから国の重要文化財に指定されたものです。小さいながらも、鎌倉時代初期の色彩が色濃く残り、迫力あるお姿をされています。

檀信徒のご協力

先ほど申し上げた防災道路は、寺院をお参りされる方が参道として利用しています。文化庁からは、防災道路と寺院の参道は設置目的が違うとお小言をいただけるのですが……。

年に一度の整備作業（草刈・清掃など）には、多くの檀信徒の方々がご参加くださり、見違えるほど道路をきれいにしてくださいませ。この道路が、檀信徒の皆さまにとっては防災道路ではなく、寺院への参道だからこそこのように日々の維持ができるわけであり、住職と文化庁とが文化財保護と信仰の狭間で対立する一面でもあります。

また文化財公開時も檀信徒の方々に色々お手伝いいただき、寺院の宝物に親しみを持っていただくよう取り組んでいます。

寺院の伽藍を護持していくことは、どんな規模であっても、簡単なことではありません。皆さまの菩提寺はいかがでしょうか。これを機に、文化財保護と寺院の護持に、少しでも心を向けていただければ幸甚に存じます。

ち しゃくいん かんげつ え 智積院「観月会」のご案内

日 時:平成29年10月4日(水) 中秋 18時より(17時開場・21時閉門)

於 :智積院講堂

プログラム

第1部

- ◆ 声明公演
- ◆ 瞑想体験
「月輪観」



第2部

- ◆ お月見コンサート
カトレア サクソフォン カルテット
Cattleya Saxophone Quartetto
ソプラノサククス 本田千鈴
アルトサククス 西村琴乃
テナーサククス 西川静
バリトンサククス 亀井友恵



チケット

- ◆ 前売り券 3,700円
 - ◆ 当日券 4,200円(枚数限定)
 - ◆ 智積院会館宿泊パック 9,000円(枚数限定)
- ※但し一部屋2名以上でお願いします。
(通常の宿泊一泊朝食付6,670円に観月会チケットが含まれます)
※チケットは全て月見弁当・お茶付きです

チケットお申し込み・お問い合わせ

TEL 075-541-5363 (智積院会館)

詳細は総本山智積院ホームページをご覧ください
<http://www.chisan.or.jp/event/list/detail/>

京都 総本山智積院

〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町964
TEL: 075-541-5361 FAX: 075-541-5364

宿坊 智積院会館

宿泊料金 6,670円
(朝食・灯明料・税込)
ご予約・お問い合わせ
TEL 075-541-5363
・JR京都駅よりバス約10分
・京阪電車七条駅より徒歩約10分

写経のしどい
毎月21日 13時より
於 金堂
納経料 千円

智積院阿字観会

14時より(受付13時より)
於 智積院金堂地下ホール
(参加灯明料五百円・要事前申込)

9月12日(火)
10月12日(木)
12月8日(金)

東京 総本山智積院別院 真福寺

〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-8
TEL: 03-3431-1081 FAX: 03-3431-0203

愛宕薬師(縁日)(毎月8日)

※8日が土日祝の際は第一金曜日
・大護摩供法要 12時より
・写経会(納経料千円) 14時より
※初めて写経に参加される方は13時30分
までに受付にお越しください
9月8日(金) 10月6日(金)
11月8日(水)

やすらぎ寄席

毎月第3木曜日 18時30分より
・恒例抽選会開催
於 本堂(木戸銭千五百円)
9月21日 談志一門会
10月19日 三遊亭
11月16日 談志一門会

真福寺阿字観会

昼の部15時・夜の部19時より
於 本堂(無料・要事前申込)
9月26日(火) 10月24日(火)
11月28日(火)

愛宕薬師フォーラム(無料)

10月13日(金) 14時より
「長野オリンピックエンブレムデザインがで
きるまで」アイデアはこうして生まれる」
長野冬季オリンピックエンブレムデザイン
グラフィックデザイナー/篠塚正典先生

